出品リスト

尾上松之助と時代劇スターの系譜

Matsunosuke Onoe and the Culture of Period Films

2005年
4月5日(火)—10月9日(日)
毎週月曜日および5月23日(月)—5月30日(月)、8月19日(金)は休室

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室(7階)

開室時間：午前11時—午後6時30分（入場は午後6時まで）
主催：東京国立近代美術館フィルムセンター
協力：京都府京都文化博物館／立命館大学アート・リサーチセンター

ごあいさつ

本年は我が国最古の映画スター、尾上松之助（1875-1926）の生誕130周年にあたります。旅回りの歌舞伎役者であった松之助が「日本映画の父」牧野省三に見出され、京都・横田商会の「碁盤忠信」に初出演したのは明治42（1909）年。映画が渡来した明治29（1896）年から13年後、日本人の撮影になる映画が公開された明治32（1899）年から数えて10年目のことでした。

小柄でケレンを得意とする松之助は、歌舞伎の影響を残す「旧劇」のジャンルに剣戟やトリックを駆使した活動写真ならではの魅力を開拓して新風を巻き起こします。また、ギョロリと大目玉をむいて見得を切る演技が評判を呼んだことから「目玉の松ちゃん」の愛称が定着し、「松之助劇」は子供から大人まで幅広い観客層の心を掴みながら、明治から大正期にかけて日本映画の草創期をまさに《席巻》しました。その最盛期には10日おきに3種もの新作が封切館3館のスクリーンを飾り、遺作となる「侠骨三日月」まで松之助生涯の出演作品は実に1,000本を超えたともいわれています。松之助劇の興隆はまた同時に、映画そのものが大衆娯楽の王座へとのぼりつめるプロセスであったと言っても過言ではありません。

本展は、現存する関連の映像や珍しい肉声などを交えながら、当時の貴重な資料によって尾上松之助の業績を顕彰しつつ、元祖スーパー・スターの面影を再現しようとするものです。さらには大河内傳次郎、阪東妻三郎ら、ポスト松之助の時代を築いた昭和の剣戟スターたちにも照明を当てて時代劇映画の系譜を俯瞰します。

2005年4月

東京国立近代美術館フィルムセンター

Foreword

The year 2005 marks the 130th anniversary of the birth of the first movie star in Japan, Onoe Matsunosuke (1875-1926.) Onoe, originally a provincial kabuki actor, was discovered by Makino Shôzô, "the father of Japanese film," and made his screen debut in 1909. This was 13 years after the motion picture was imported to Japan in 1896 and 10 years after the first domestic production was released in 1899.

Performing in the *kyûgeki*(period film) genre that was influenced by the kabuki theater, Onoe performed sword-fighting and visual tricks with his small and agile physique, which looked especially attractive on screen. His eye-gripping acrobatic acts earned him a phenomenal popularity with all generations of the Japanese public. They called him "*Medama*(Eyeball)," a nickname they gave him after his signature gesture of rolling his eyes when he struck a pose. His presence was such that he dominated the film industry in Japan in its nascent years during the 1910s and the 1920s. At the peak of his career, 3 new films with Onoe were shown every 10 days in 3 first-run cinemas, and it is said that he starred in a total of over 1,000 films. In fact, it would be appropriate to state that his overwhelming and enduring popularity coincided with the process in which the motion pictures ascended the throne of popular entertainment.

For this exhibition, we have gathered precious materials including extant film footage, voice recordings, and print material in order to pay homage to Onoe Matsunosuke, the first super star of Japanese cinema, by presenting him and his career from various perspectives. In addition, the exhibition traces the pedigree of period films by also focusing on the period film genre stars who were active in the post-Onoe era.

April, 2005

National Film Center,
the National Museum of Modern Art, Tokyo

表紙：尾上松之助（展示品17より）

発行・著作：　東京国立近代美術館©
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
TEL：03-3214-2561

編集：　東京国立近代美術館フィルムセンター
〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
TEL：03-3561-0823

制作：　印象社

発行日：　2005年4月1日

＊本展の開催にあたっては下記の団体・個人のご協力・ご支援を賜りました。記して感謝いたします（五十音順・敬称略）

京都府京都文化博物館、（財）高津古文化会館、（株）高津商会、立命館大学アート・リサーチセンター
雨宮六途子、猪鼻浩行、大西秀紀、大矢敦子、片山敬雅、片山ゆき子、高津利治、高津博行、児玉竜一、小林昌典、田中眞澄、冨田美香、本地陽彦、水口薫、水口正己、森脇清隆、吉田武雄

凡例：
・本リストの通番と会場内での配列順序は一致していない場合があります。
・★印は展示品が複数点で構成されていることを示します。
・特に記載のないものはフィルムセンターの所蔵資料です。
・出品内容は止むを得ず変更される場合があります。

1. 尾上松之助等身大パネル
京都府京都文化博物館所蔵ガラス乾板ネガより複製

2. 尾上松之助肖像写真
京都府京都文化博物館所蔵

3. 京都花見小路・祇園館辻番付（1890［明23］年）
38.8×54.2

4. 全國俳優大見立（1918［大7］年）
53.7×79.0

5. ウィリアムソン式和製撮影機
本体高さ39.5

6. 「天竺徳兵衛」（日活、1914［大3］年）活動写真絵葉書

7. 浅草千代田館「観音大五郎」（日活、1915［大4］年）ポスター
89.4×61.3

8. トキワ座「江戸の花 血染の纏」（日活、1916［大5］年）ポスター
106.5×80.1

9. 浅草三友館「俵星玄蕃」（日活、1917［大6］年）ポスター
91.0×65.0

10. 「岩見重太郎」（日活、1917［大6］年）ポスター
72.9×54.1

★11. 浅草富士館　尾上松之助劇引き札（1919～24［大8～13］年）

★12. 浅草遊樂館　尾上松之助劇引き札（1919～21［大8～10］年）

13. 浅草遊樂館「梁川庄八」（日活、1919［大8］年）チラシ
19.5×27.0

14. 浅草遊樂館「關口弥太郎」（日活、1919［大8］年）チラシ
19.5×27.2

15. 新版活動寫真雙六（1918［大7］年）
55.5×79.1

16. 「豪傑児雷也」（日活、1921［大10］年、牧野省三監督）より［抜粋映像］

17. 尾上松之助劇絵葉書［アルバム］
本地陽彦氏所蔵

★18. 尾上松之助劇豆プロマイド［アルバム］
本地陽彦氏所蔵

19. 横田家旧蔵　横田永之助、尾上松之助写真アルバム
片山ゆき子氏、片山敬雅氏、水口薫氏所蔵

20. ［ディスプレイによる展示］
★ 尾上松之助劇絵葉書
小林昌典氏提供
★ 尾上松之助劇絵葉書（展示品17より）
本地陽彦氏提供
★ 尾上松之助劇豆プロマイド（展示品18より）
本地陽彦氏提供
★ 横田家旧蔵　横田永之助、尾上松之助写真（展示品19より）
片山ゆき子氏、片山敬雅氏、水口薫氏提供

21. 「史劇 楠公訣別」（日活、1921［大10］年）より［抜粋映像］

22. 摂政宮殿下台覧紀念「史劇楠公袂別」SPレコード（日東蓄音機）
大西秀紀氏所蔵

23. 摂政宮殿下台覧紀念「史劇楠公袂別」SPレコード［音声］
大西秀紀氏提供

24. 御絵はか記　尾上松之助［松之助の新邸を紹介した絵葉書］
京都府京都文化博物館所蔵

25. 尾上松之助が使用した太刀（撮影用小道具）
高津古文化会館所蔵

26. 尾上松之助、片岡長正 浮世絵版画
30.0×18.0
高津古文化会館所蔵

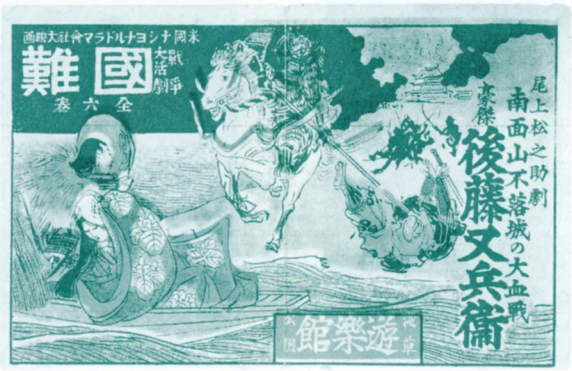
★27. 尾上松之助一座幹部絵葉書
本地陽彦氏所蔵

28. 浅草富士館「落花の舞」（日活、1925［大14］年、池田富保監督）チラシ
26.9×38.5

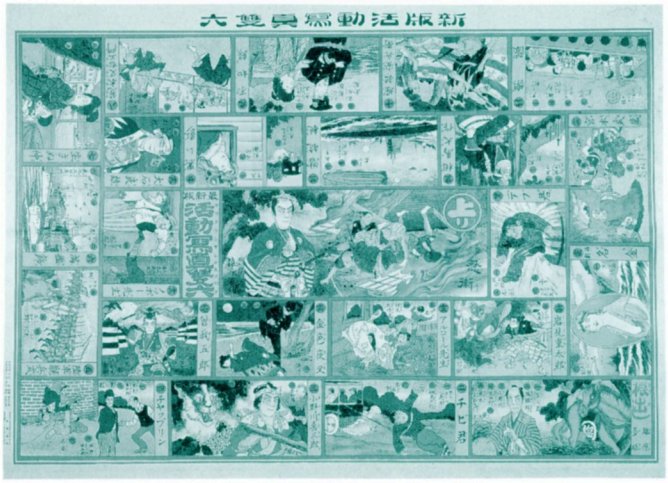
29. 「續篇 鞍馬天狗」（日活、1925［大14］年、公木之雄監督）チラシ
15.4×23.4

6

10



12



15

30. 富士館「荒木又右衛門」（日活、1925［大14］年、池田富保撮影監督）チラシ
26.5×38.6

31. 「荒木又右衛門」（日活、1925［大14］年、池田富保撮影監督）絵葉書

32. 河部五郎「義刃」（日活、1925［大14］年、築山光吉監督）チラシ
38.2×26.5

33. 河部五郎「月形半平太」（日活、1926［大15］年、高橋壽康監督）チラシ
26.6×19.3

34. 新京極帝国館「實録忠臣藏」（日活、1926［大15］年、池田富保撮影監督）チラシ
20.0×27.5

35. 「赤城颪　國定忠次」（日活、1926［大15］年、池田富保監督）チラシ
19.5×27.0

36. 雑誌「日活タイムス」（日活）第4号（1925［大14］年2月）尾上松之助号

37. 「尾上松之助葬儀実況」（日活、1926［大15］年）［映像］
京都府京都文化博物館提供

★38. 「映画報国展覧会」（キネマ旬報社主催、1940［昭15］年）記録写真

39. 「映画文化展覧会」（キネマ旬報社主催、1940［昭15］年）記録写真

40. 「赤穂浪士　大忠臣藏」（横田商会、1910-12［明43-大元］年）ポスター［1955年再公開時のもの］
107.5×80.0

41. 尾上松之助像建立記念絵葉書（1966［昭41］年）

42. 「尾上松之助と京都 ―目玉の松ちゃんの面影を巡って―」（立命館大学アート・リサーチセンター、2003年）［映像作品］
立命館大学アート・リサーチセンター提供

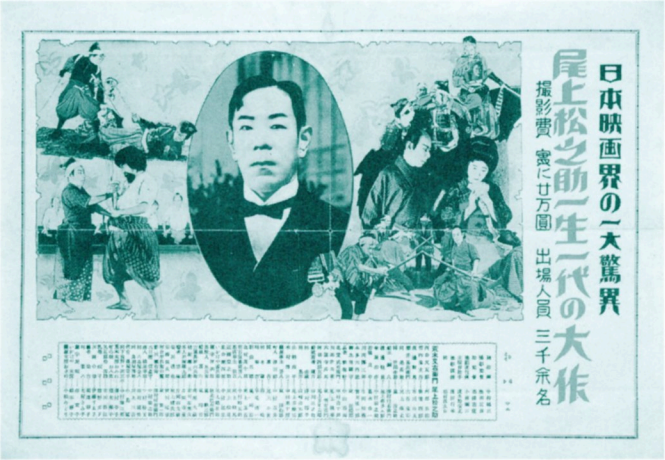
• • •

43. 大日本活動常設館々主聯盟映画配給社チラシ（1928［昭3］年）
55.0×38.2

44. 日本活動俳優寫真番附（1926［大15］年）
54.6×80.6

45. 新撰　人氣スター寫真番附（1929［昭4］年）
54.9×79.5

46. パルボ（アンドレ・デブリー社／仏）［撮影機］



【大河内傳次郎】

47. 「丹下左膳　第一篇」（日活、1933［昭8］年）ポスター
78.0×52.9

★48. 大河内傳次郎プロマイド

49. 「沓掛時次郎」（日活、1929［昭4］年）チラシ
19.5×26.9

50. 「御誂次郎吉格子」（日活、1931［昭6］年）チラシ
15.6×23.2

51. 雑誌「大日活」（大日活雑誌社）第5巻第4号（1928［昭3］年4月）

52. 同第5巻第11号（1928［昭3］年11月）

【阪東妻三郎】

53. 「無明地獄」（阪妻プロ、1926［大15］年）ポスター
61.8×29.8

★54. 阪東妻三郎プロマイド

55. 「蛇眼」（阪妻プロ、1926［大15］年）チラシ
29.3×22.2

56. 「蜘蛛」（阪妻プロ、1926［大15］年）チラシ
25.0×37.8

57. 雑誌「妻三郎」（表現社）第1号（1925［大14］年11月）

58. 雑誌「うづまさ」（「うづまさ」同人社）創刊号（1926［大15］年6月）

【嵐寛壽郎】

59. 「鞍馬天狗」（寛壽郎プロ、1928［昭3］年）ポスター
78.1×41.4

★60. 嵐寛壽郎プロマイド

61. 「鞍馬天狗異聞　角兵衛獅子」（マキノ、1927［昭2］年）チラシ
13.2×9.5

62. 「鞍馬天狗」（寛壽郎プロ、1928［昭3］年）チラシ
13.9×8.9

【市川右太衛門】

63. 「淨魂」（右太プロ、1927［昭2］年）ポスター
77.5×36.7

★64. 市川右太衛門プロマイド

65. 「かげろふ」（右太プロ、1928［昭3］年）チラシ
38.9×27.4

66. 雑誌「右太衛門映画」（右太衛門映畫社）第2巻第1号（1928［昭3］年1月）

【片岡千恵蔵】

67. 「天下太平記」（千恵プロ、1928［昭3］年）ポスター
77.2×41.0

★68. 片岡千恵蔵プロマイド

69. 「萬花地獄」（マキノ、1927［昭2］年）チラシ
13.1×19.1

70. 「愛染地獄 第三篇」（千恵プロ、1930［昭5］年）チラシ
15.5×23.0

71. 「右門捕物帖　三番手柄」（千恵プロ、1930［昭5］年）チラシ
23.0×15.7

72. 雑誌「千恵藏映画」（千恵藏映画社）創刊号（1929［昭4］年10月）

【林長二郎】

73. 「乱軍」（松竹―衣笠映画聯盟、1927［昭2］年）ポスター
63.3×29.5

★74. 林長二郎プロマイド

★75. 林長二郎豆プロ

76. 「稚兒の劍法」（衣笠映画聯盟―松竹、1927［昭2］年）チラシ
46.0×31.3

77. 「篝火」（衣笠映画聯盟―松竹、1928［昭3］年）チラシ
15.5×22.8

78. 「吹雪峠」（松竹、1929［昭4］年）チラシ
15.0×22.2

79. 雑誌「長二郎映画グラヒック」（松葉屋出版社）第2巻第4号（1928［昭3］年10月）

48

60

68

54

64

74

尾上松之助の誕生日・命日を記念して9月頃に講演会など関連イベントの開催を予定しています。詳細はホームページなどで発表します。

東京国立近代美術館ホームページ
http://www.momat.go.jp/

出品リスト

尾上松之助と時代劇スターの系譜

Matsunosuke Onoe and the Culture of Period Films

2005年
4月5日(火)—10月9日(日)
毎週月曜日および5月23日(月)—5月30日(月)、8月19日(金)は休室

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室(7階)

開室時間：午前11時—午後6時30分（入場は午後6時まで）
主催：東京国立近代美術館フィルムセンター
協力：京都府京都文化博物館／立命館大学アート・リサーチセンター

ごあいさつ

本年は我が国最古の映画スター、尾上松之助（1875-1926）の生誕130周年にあたります。旅回りの歌舞伎役者であった松之助が「日本映画の父」牧野省三に見出され、京都・横田商会の「碁盤忠信」に初出演したのは明治42（1909）年。映画が渡来した明治29（1896）年から13年後、日本人の撮影になる映画が公開された明治32（1899）年から数えて10年目のことでした。

小柄でケレンを得意とする松之助は、歌舞伎の影響を残す「旧劇」のジャンルに剣戟やトリックを駆使した活動写真ならではの魅力を開拓して新風を巻き起こします。また、ギョロリと大目玉をむいて見得を切る演技が評判を呼んだことから「目玉の松ちゃん」の愛称が定着し、「松之助劇」は子供から大人まで幅広い観客層の心を掴みながら、明治から大正期にかけて日本映画の草創期をまさに《席巻》しました。その最盛期には10日おきに3種もの新作が封切館3館のスクリーンを飾り、遺作となる「侠骨三日月」まで松之助生涯の出演作品は実に1,000本を超えたともいわれています。松之助劇の興隆はまた同時に、映画そのものが大衆娯楽の王座へとのぼりつめるプロセスであったと言っても過言ではありません。

本展は、現存する関連の映像や珍しい肉声などを交えながら、当時の貴重な資料によって尾上松之助の業績を顕彰しつつ、元祖スーパー・スターの面影を再現しようとするものです。さらには大河内傳次郎、阪東妻三郎ら、ポスト松之助の時代を築いた昭和の剣戟スターたちにも照明を当てて時代劇映画の系譜を俯瞰します。

2005年4月

東京国立近代美術館フィルムセンター

Foreword

The year 2005 marks the 130th anniversary of the birth of the first movie star in Japan, Onoe Matsunosuke (1875-1926.) Onoe, originally a provincial kabuki actor, was discovered by Makino Shôzô, "the father of Japanese film," and made his screen debut in 1909. This was 13 years after the motion picture was imported to Japan in 1896 and 10 years after the first domestic production was released in 1899.

Performing in the *kyûgeki*(period film) genre that was influenced by the kabuki theater, Onoe performed sword-fighting and visual tricks with his small and agile physique, which looked especially attractive on screen. His eye-gripping acrobatic acts earned him a phenomenal popularity with all generations of the Japanese public. They called him "*Medama*(Eyeball)," a nickname they gave him after his signature gesture of rolling his eyes when he struck a pose. His presence was such that he dominated the film industry in Japan in its nascent years during the 1910s and the 1920s. At the peak of his career, 3 new films with Onoe were shown every 10 days in 3 first-run cinemas, and it is said that he starred in a total of over 1,000 films. In fact, it would be appropriate to state that his overwhelming and enduring popularity coincided with the process in which the motion pictures ascended the throne of popular entertainment.

For this exhibition, we have gathered precious materials including extant film footage, voice recordings, and print material in order to pay homage to Onoe Matsunosuke, the first super star of Japanese cinema, by presenting him and his career from various perspectives. In addition, the exhibition traces the pedigree of period films by also focusing on the period film genre stars who were active in the post-Onoe era.

April, 2005

National Film Center,
the National Museum of Modern Art, Tokyo

表紙：尾上松之助（展示品17より）

発行・著作：　東京国立近代美術館©
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
TEL：03-3214-2561

編集：　東京国立近代美術館フィルムセンター
〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
TEL：03-3561-0823

制作：　印象社

発行日：　2005年4月1日

＊本展の開催にあたっては下記の団体・個人のご協力・ご支援を賜りました。記して感謝いたします（五十音順・敬称略）

京都府京都文化博物館、（財）高津古文化会館、（株）高津商会、立命館大学アート・リサーチセンター
雨宮六途子、猪鼻浩行、大西秀紀、大矢敦子、片山敬雅、片山ゆき子、高津利治、高津博行、児玉竜一、小林昌典、田中眞澄、冨田美香、本地陽彦、水口薫、水口正己、森脇清隆、吉田武雄

凡例：
・本リストの通番と会場内での配列順序は一致していない場合があります。
・★印は展示品が複数点で構成されていることを示します。
・特に記載のないものはフィルムセンターの所蔵資料です。
・出品内容は止むを得ず変更される場合があります。

1. 尾上松之助等身大パネル
京都府京都文化博物館所蔵ガラス乾板ネガより複製

2. 尾上松之助肖像写真
京都府京都文化博物館所蔵

3. 京都花見小路・祇園館辻番付（1890［明23］年）
38.8×54.2

4. 全國俳優大見立（1918［大7］年）
53.7×79.0

5. ウィリアムソン式和製撮影機
本体高さ39.5

6. 「天竺徳兵衛」（日活、1914［大3］年）活動写真絵葉書

7. 浅草千代田館「観音大五郎」（日活、1915［大4］年）ポスター
89.4×61.3

8. トキワ座「江戸の花 血染の纏」（日活、1916［大5］年）ポスター
106.5×80.1

9. 浅草三友館「俵星玄蕃」（日活、1917［大6］年）ポスター
91.0×65.0

10. 「岩見重太郎」（日活、1917［大6］年）ポスター
72.9×54.1

★11. 浅草富士館　尾上松之助劇引き札（1919～24［大8～13］年）

★12. 浅草遊樂館　尾上松之助劇引き札（1919～21［大8～10］年）

13. 浅草遊樂館「梁川庄八」（日活、1919［大8］年）チラシ
19.5×27.0

14. 浅草遊樂館「關口弥太郎」（日活、1919［大8］年）チラシ
19.5×27.2

15. 新版活動寫真雙六（1918［大7］年）
55.5×79.1

16. 「豪傑児雷也」（日活、1921［大10］年、牧野省三監督）より［抜粋映像］

17. 尾上松之助劇絵葉書［アルバム］
本地陽彦氏所蔵

★18. 尾上松之助劇豆プロマイド［アルバム］
本地陽彦氏所蔵

19. 横田家旧蔵　横田永之助、尾上松之助写真アルバム
片山ゆき子氏、片山敬雅氏、水口薫氏所蔵

20. ［ディスプレイによる展示］
★ 尾上松之助劇絵葉書
小林昌典氏提供
★ 尾上松之助劇絵葉書（展示品17より）
本地陽彦氏提供
★ 尾上松之助劇豆プロマイド（展示品18より）
本地陽彦氏提供
★ 横田家旧蔵　横田永之助、尾上松之助写真（展示品19より）
片山ゆき子氏、片山敬雅氏、水口薫氏提供

21. 「史劇 楠公訣別」（日活、1921［大10］年）より［抜粋映像］

22. 摂政宮殿下台覧紀念「史劇楠公袂別」SPレコード（日東蓄音機）
大西秀紀氏所蔵

23. 摂政宮殿下台覧紀念「史劇楠公袂別」SPレコード［音声］
大西秀紀氏提供

24. 御絵はか記　尾上松之助［松之助の新邸を紹介した絵葉書］
京都府京都文化博物館所蔵

25. 尾上松之助が使用した太刀（撮影用小道具）
高津古文化会館所蔵

26. 尾上松之助、片岡長正 浮世絵版画
30.0×18.0
高津古文化会館所蔵

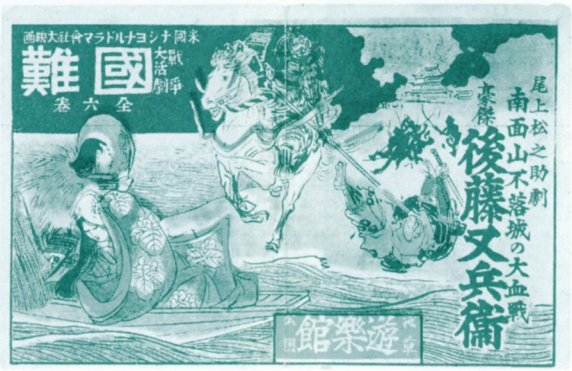
★27. 尾上松之助一座幹部絵葉書
本地陽彦氏所蔵

28. 浅草富士館「落花の舞」（日活、1925［大14］年、池田富保監督）チラシ
26.9×38.5

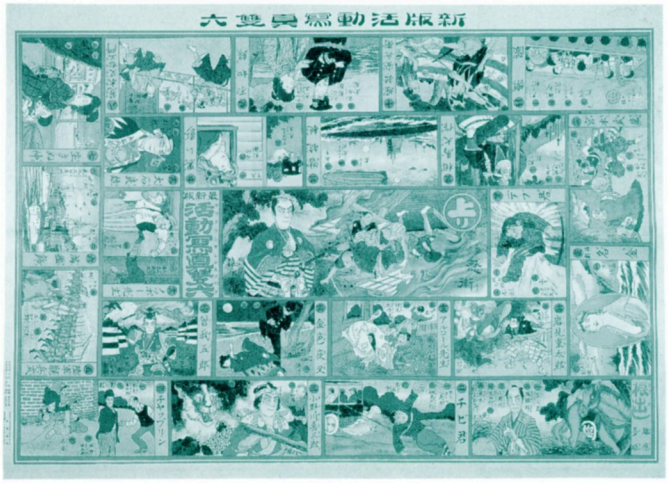
29. 「續篇 鞍馬天狗」（日活、1925［大14］年、公木之雄監督）チラシ
15.4×23.4

6

10



12



15

30. 富士館「荒木又右衛門」（日活、1925［大14］年、池田富保撮影監督）チラシ
26.5×38.6

31. 「荒木又右衛門」（日活、1925［大14］年、池田富保撮影監督）絵葉書

32. 河部五郎「義刃」（日活、1925［大14］年、築山光吉監督）チラシ
38.2×26.5

33. 河部五郎「月形半平太」（日活、1926［大15］年、高橋壽康監督）チラシ
26.6×19.3

34. 新京極帝国館「實録忠臣藏」（日活、1926［大15］年、池田富保撮影監督）チラシ
20.0×27.5

35. 「赤城颪　國定忠次」（日活、1926［大15］年、池田富保監督）チラシ
19.5×27.0

36. 雑誌「日活タイムス」（日活）第4号（1925［大14］年2月）尾上松之助号

37. 「尾上松之助葬儀実況」（日活、1926［大15］年）［映像］
京都府京都文化博物館提供

★38. 「映画報国展覧会」（キネマ旬報社主催、1940［昭15］年）記録写真

39. 「映画文化展覧会」（キネマ旬報社主催、1940［昭15］年）記録写真

40. 「赤穂浪士　大忠臣藏」（横田商会、1910-12［明43-大元］年）ポスター［1955年再公開時のもの］
107.5×80.0

41. 尾上松之助像建立記念絵葉書（1966［昭41］年）

42. 「尾上松之助と京都 ―目玉の松ちゃんの面影を巡って―」（立命館大学アート・リサーチセンター、2003年）［映像作品］
立命館大学アート・リサーチセンター提供

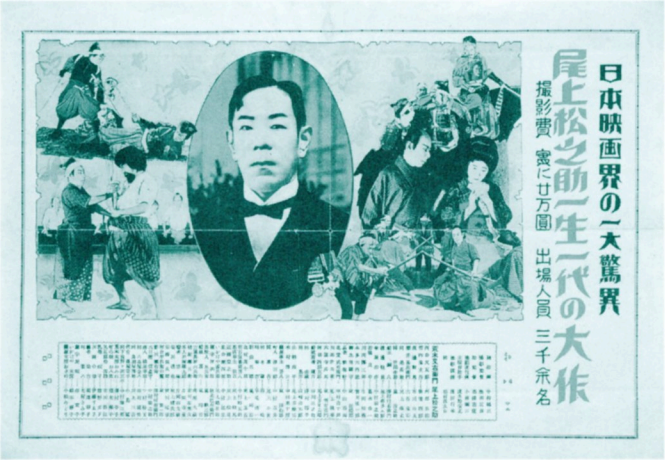
• • •

43. 大日本活動常設館々主聯盟映画配給社チラシ（1928［昭3］年）
55.0×38.2

44. 日本活動俳優寫真番附（1926［大15］年）
54.6×80.6

45. 新撰　人氣スター寫真番附（1929［昭4］年）
54.9×79.5

46. パルボ（アンドレ・デブリー社／仏）［撮影機］



【大河内傳次郎】

47. 「丹下左膳　第一篇」（日活、1933［昭8］年）ポスター
78.0×52.9

★48. 大河内傳次郎プロマイド

49. 「沓掛時次郎」（日活、1929［昭4］年）チラシ
19.5×26.9

50. 「御誂次郎吉格子」（日活、1931［昭6］年）チラシ
15.6×23.2

51. 雑誌「大日活」（大日活雑誌社）第5巻第4号（1928［昭3］年4月）

52. 同第5巻第11号（1928［昭3］年11月）

【阪東妻三郎】

53. 「無明地獄」（阪妻プロ、1926［大15］年）ポスター
61.8×29.8

★54. 阪東妻三郎プロマイド

55. 「蛇眼」（阪妻プロ、1926［大15］年）チラシ
29.3×22.2

56. 「蜘蛛」（阪妻プロ、1926［大15］年）チラシ
25.0×37.8

57. 雑誌「妻三郎」（表現社）第1号（1925［大14］年11月）

58. 雑誌「うづまさ」（「うづまさ」同人社）創刊号（1926［大15］年6月）

【嵐寛壽郎】

59. 「鞍馬天狗」（寛壽郎プロ、1928［昭3］年）ポスター
78.1×41.4

★60. 嵐寛壽郎プロマイド

61. 「鞍馬天狗異聞　角兵衛獅子」（マキノ、1927［昭2］年）チラシ
13.2×9.5

62. 「鞍馬天狗」（寛壽郎プロ、1928［昭3］年）チラシ
13.9×8.9

【市川右太衛門】

63. 「淨魂」（右太プロ、1927［昭2］年）ポスター
77.5×36.7

★64. 市川右太衛門プロマイド

65. 「かげろふ」（右太プロ、1928［昭3］年）チラシ
38.9×27.4

66. 雑誌「右太衛門映画」（右太衛門映畫社）第2巻第1号（1928［昭3］年1月）

【片岡千恵蔵】

67. 「天下太平記」（千恵プロ、1928［昭3］年）ポスター
77.2×41.0

★68. 片岡千恵蔵プロマイド

69. 「萬花地獄」（マキノ、1927［昭2］年）チラシ
13.1×19.1

70. 「愛染地獄 第三篇」（千恵プロ、1930［昭5］年）チラシ
15.5×23.0

71. 「右門捕物帖　三番手柄」（千恵プロ、1930［昭5］年）チラシ
23.0×15.7

72. 雑誌「千恵藏映画」（千恵藏映画社）創刊号（1929［昭4］年10月）

【林長二郎】

73. 「乱軍」（松竹―衣笠映画聯盟、1927［昭2］年）ポスター
63.3×29.5

★74. 林長二郎プロマイド

★75. 林長二郎豆プロ

76. 「稚兒の劍法」（衣笠映画聯盟―松竹、1927［昭2］年）チラシ
46.0×31.3

77. 「篝火」（衣笠映画聯盟―松竹、1928［昭3］年）チラシ
15.5×22.8

78. 「吹雪峠」（松竹、1929［昭4］年）チラシ
15.0×22.2

79. 雑誌「長二郎映画グラヒック」（松葉屋出版社）第2巻第4号（1928［昭3］年10月）

48

60

68

54

64

74

尾上松之助の誕生日・命日を記念して9月頃に講演会など関連イベントの開催を予定しています。詳細はホームページなどで発表します。

東京国立近代美術館ホームページ
http://www.momat.go.jp/

出品リスト

尾上松之助と時代劇スターの系譜

Matsunosuke Onoe and the Culture of Period Films

2005年
4月5日(火)—10月9日(日)
毎週月曜日および5月23日(月)—5月30日(月)、8月19日(金)は休室

東京国立近代美術館フィルムセンター展示室(7階)

開室時間：午前11時—午後6時30分（入場は午後6時まで）
主催：東京国立近代美術館フィルムセンター
協力：京都府京都文化博物館／立命館大学アート・リサーチセンター

ごあいさつ

本年は我が国最古の映画スター、尾上松之助（1875-1926）の生誕130周年にあたります。旅回りの歌舞伎役者であった松之助が「日本映画の父」牧野省三に見出され、京都・横田商会の「碁盤忠信」に初出演したのは明治42（1909）年。映画が渡来した明治29（1896）年から13年後、日本人の撮影になる映画が公開された明治32（1899）年から数えて10年目のことでした。

小柄でケレンを得意とする松之助は、歌舞伎の影響を残す「旧劇」のジャンルに剣戟やトリックを駆使した活動写真ならではの魅力を開拓して新風を巻き起こします。また、ギョロリと大目玉をむいて見得を切る演技が評判を呼んだことから「目玉の松ちゃん」の愛称が定着し、「松之助劇」は子供から大人まで幅広い観客層の心を掴みながら、明治から大正期にかけて日本映画の草創期をまさに《席巻》しました。その最盛期には10日おきに3種もの新作が封切館3館のスクリーンを飾り、遺作となる「侠骨三日月」まで松之助生涯の出演作品は実に1,000本を超えたともいわれています。松之助劇の興隆はまた同時に、映画そのものが大衆娯楽の王座へとのぼりつめるプロセスであったと言っても過言ではありません。

本展は、現存する関連の映像や珍しい肉声などを交えながら、当時の貴重な資料によって尾上松之助の業績を顕彰しつつ、元祖スーパー・スターの面影を再現しようとするものです。さらには大河内傳次郎、阪東妻三郎ら、ポスト松之助の時代を築いた昭和の剣戟スターたちにも照明を当てて時代劇映画の系譜を俯瞰します。

2005年4月

東京国立近代美術館フィルムセンター

Foreword

The year 2005 marks the 130th anniversary of the birth of the first movie star in Japan, Onoe Matsunosuke (1875-1926.) Onoe, originally a provincial kabuki actor, was discovered by Makino Shôzô, "the father of Japanese film," and made his screen debut in 1909. This was 13 years after the motion picture was imported to Japan in 1896 and 10 years after the first domestic production was released in 1899.

Performing in the *kyûgeki*(period film) genre that was influenced by the kabuki theater, Onoe performed sword-fighting and visual tricks with his small and agile physique, which looked especially attractive on screen. His eye-gripping acrobatic acts earned him a phenomenal popularity with all generations of the Japanese public. They called him "*Medama*(Eyeball)," a nickname they gave him after his signature gesture of rolling his eyes when he struck a pose. His presence was such that he dominated the film industry in Japan in its nascent years during the 1910s and the 1920s. At the peak of his career, 3 new films with Onoe were shown every 10 days in 3 first-run cinemas, and it is said that he starred in a total of over 1,000 films. In fact, it would be appropriate to state that his overwhelming and enduring popularity coincided with the process in which the motion pictures ascended the throne of popular entertainment.

For this exhibition, we have gathered precious materials including extant film footage, voice recordings, and print material in order to pay homage to Onoe Matsunosuke, the first super star of Japanese cinema, by presenting him and his career from various perspectives. In addition, the exhibition traces the pedigree of period films by also focusing on the period film genre stars who were active in the post-Onoe era.

April, 2005

National Film Center,
the National Museum of Modern Art, Tokyo

表紙：尾上松之助（展示品17より）

発行・著作：　東京国立近代美術館©
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
TEL：03-3214-2561

編集：　東京国立近代美術館フィルムセンター
〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
TEL：03-3561-0823

制作：　印象社

発行日：　2005年4月1日

＊本展の開催にあたっては下記の団体・個人のご協力・ご支援を賜りました。記して感謝いたします（五十音順・敬称略）

京都府京都文化博物館、（財）高津古文化会館、（株）高津商会、立命館大学アート・リサーチセンター
雨宮六途子、猪鼻浩行、大西秀紀、大矢敦子、片山敬雅、片山ゆき子、高津利治、高津博行、児玉竜一、小林昌典、田中眞澄、冨田美香、本地陽彦、水口薫、水口正己、森脇清隆、吉田武雄

凡例：
・本リストの通番と会場内での配列順序は一致していない場合があります。
・★印は展示品が複数点で構成されていることを示します。
・特に記載のないものはフィルムセンターの所蔵資料です。
・出品内容は止むを得ず変更される場合があります。

1. 尾上松之助等身大パネル
京都府京都文化博物館所蔵ガラス乾板ネガより複製

2. 尾上松之助肖像写真
京都府京都文化博物館所蔵

3. 京都花見小路・祇園館辻番付（1890［明23］年）
38.8×54.2

4. 全國俳優大見立（1918［大7］年）
53.7×79.0

5. ウィリアムソン式和製撮影機
本体高さ39.5

6. 「天竺徳兵衛」（日活、1914［大3］年）活動写真絵葉書

7. 浅草千代田館「観音大五郎」（日活、1915［大4］年）ポスター
89.4×61.3

8. トキワ座「江戸の花 血染の纏」（日活、1916［大5］年）ポスター
106.5×80.1

9. 浅草三友館「俵星玄蕃」（日活、1917［大6］年）ポスター
91.0×65.0

10. 「岩見重太郎」（日活、1917［大6］年）ポスター
72.9×54.1

★11. 浅草富士館　尾上松之助劇引き札（1919～24［大8～13］年）

★12. 浅草遊樂館　尾上松之助劇引き札（1919～21［大8～10］年）

13. 浅草遊樂館「梁川庄八」（日活、1919［大8］年）チラシ
19.5×27.0

14. 浅草遊樂館「關口弥太郎」（日活、1919［大8］年）チラシ
19.5×27.2

15. 新版活動寫真雙六（1918［大7］年）
55.5×79.1

16. 「豪傑児雷也」（日活、1921［大10］年、牧野省三監督）より［抜粋映像］

17. 尾上松之助劇絵葉書［アルバム］
本地陽彦氏所蔵

★18. 尾上松之助劇豆プロマイド［アルバム］
本地陽彦氏所蔵

19. 横田家旧蔵　横田永之助、尾上松之助写真アルバム
片山ゆき子氏、片山敬雅氏、水口薫氏所蔵

20. ［ディスプレイによる展示］
★ 尾上松之助劇絵葉書
小林昌典氏提供
★ 尾上松之助劇絵葉書（展示品17より）
本地陽彦氏提供
★ 尾上松之助劇豆プロマイド（展示品18より）
本地陽彦氏提供
★ 横田家旧蔵　横田永之助、尾上松之助写真（展示品19より）
片山ゆき子氏、片山敬雅氏、水口薫氏提供

21. 「史劇 楠公訣別」（日活、1921［大10］年）より［抜粋映像］

22. 摂政宮殿下台覧紀念「史劇楠公袂別」SPレコード（日東蓄音機）
大西秀紀氏所蔵

23. 摂政宮殿下台覧紀念「史劇楠公袂別」SPレコード［音声］
大西秀紀氏提供

24. 御絵はか記　尾上松之助［松之助の新邸を紹介した絵葉書］
京都府京都文化博物館所蔵

25. 尾上松之助が使用した太刀（撮影用小道具）
高津古文化会館所蔵

26. 尾上松之助、片岡長正 浮世絵版画
30.0×18.0
高津古文化会館所蔵

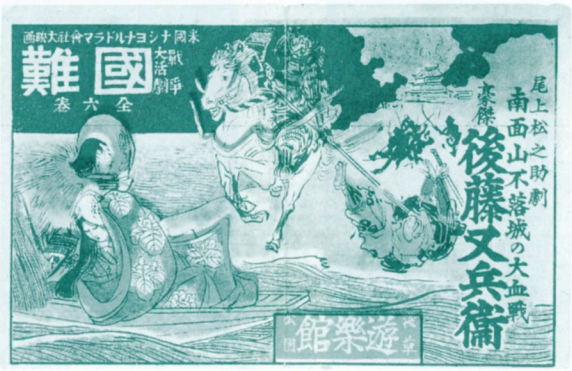
★27. 尾上松之助一座幹部絵葉書
本地陽彦氏所蔵

28. 浅草富士館「落花の舞」（日活、1925［大14］年、池田富保監督）チラシ
26.9×38.5

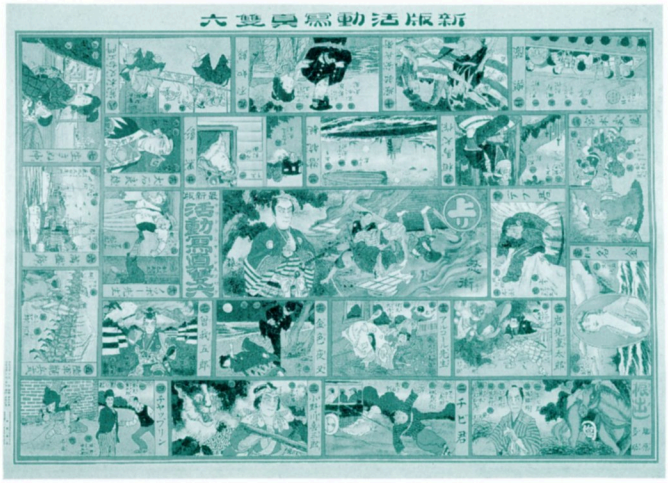
29. 「續篇 鞍馬天狗」（日活、1925［大14］年、公木之雄監督）チラシ
15.4×23.4

6

10



12



15

30. 富士館「荒木又右衛門」（日活、1925［大14］年、池田富保撮影監督）チラシ
26.5×38.6

31. 「荒木又右衛門」（日活、1925［大14］年、池田富保撮影監督）絵葉書

32. 河部五郎「義刃」（日活、1925［大14］年、築山光吉監督）チラシ
38.2×26.5

33. 河部五郎「月形半平太」（日活、1926［大15］年、高橋壽康監督）チラシ
26.6×19.3

34. 新京極帝国館「實録忠臣藏」（日活、1926［大15］年、池田富保撮影監督）チラシ
20.0×27.5

35. 「赤城颪　國定忠次」（日活、1926［大15］年、池田富保監督）チラシ
19.5×27.0

36. 雑誌「日活タイムス」（日活）第4号（1925［大14］年2月）尾上松之助号

37. 「尾上松之助葬儀実況」（日活、1926［大15］年）［映像］
京都府京都文化博物館提供

★38. 「映画報国展覧会」（キネマ旬報社主催、1940［昭15］年）記録写真

39. 「映画文化展覧会」（キネマ旬報社主催、1940［昭15］年）記録写真

40. 「赤穂浪士　大忠臣藏」（横田商会、1910-12［明43-大元］年）ポスター［1955年再公開時のもの］
107.5×80.0

41. 尾上松之助像建立記念絵葉書（1966［昭41］年）

42. 「尾上松之助と京都 ―目玉の松ちゃんの面影を巡って―」（立命館大学アート・リサーチセンター、2003年）［映像作品］
立命館大学アート・リサーチセンター提供

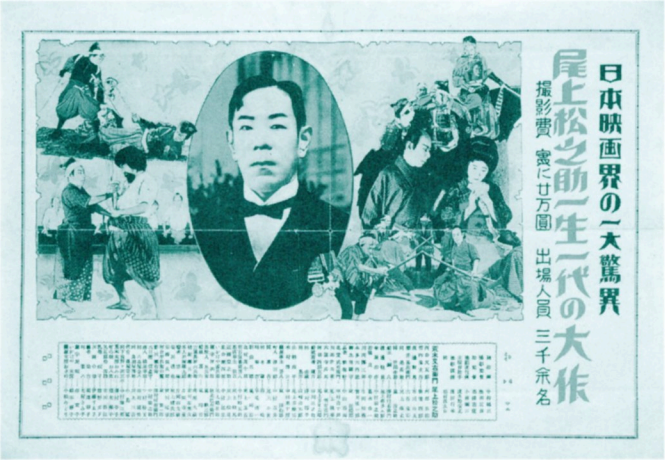
• • •

43. 大日本活動常設館々主聯盟映画配給社チラシ（1928［昭3］年）
55.0×38.2

44. 日本活動俳優寫真番附（1926［大15］年）
54.6×80.6

45. 新撰　人氣スター寫真番附（1929［昭4］年）
54.9×79.5

46. パルボ（アンドレ・デブリー社／仏）［撮影機］



【大河内傳次郎】

47. 「丹下左膳　第一篇」（日活、1933［昭8］年）ポスター
78.0×52.9

★48. 大河内傳次郎プロマイド

49. 「沓掛時次郎」（日活、1929［昭4］年）チラシ
19.5×26.9

50. 「御誂次郎吉格子」（日活、1931［昭6］年）チラシ
15.6×23.2

51. 雑誌「大日活」（大日活雑誌社）第5巻第4号（1928［昭3］年4月）

52. 同第5巻第11号（1928［昭3］年11月）

【阪東妻三郎】

53. 「無明地獄」（阪妻プロ、1926［大15］年）ポスター
61.8×29.8

★54. 阪東妻三郎プロマイド

55. 「蛇眼」（阪妻プロ、1926［大15］年）チラシ
29.3×22.2

56. 「蜘蛛」（阪妻プロ、1926［大15］年）チラシ
25.0×37.8

57. 雑誌「妻三郎」（表現社）第1号（1925［大14］年11月）

58. 雑誌「うづまさ」（「うづまさ」同人社）創刊号（1926［大15］年6月）

【嵐寛壽郎】

59. 「鞍馬天狗」（寛壽郎プロ、1928［昭3］年）ポスター
78.1×41.4

★60. 嵐寛壽郎プロマイド

61. 「鞍馬天狗異聞　角兵衛獅子」（マキノ、1927［昭2］年）チラシ
13.2×9.5

62. 「鞍馬天狗」（寛壽郎プロ、1928［昭3］年）チラシ
13.9×8.9

【市川右太衛門】

63. 「淨魂」（右太プロ、1927［昭2］年）ポスター
77.5×36.7

★64. 市川右太衛門プロマイド

65. 「かげろふ」（右太プロ、1928［昭3］年）チラシ
38.9×27.4

66. 雑誌「右太衛門映画」（右太衛門映畫社）第2巻第1号（1928［昭3］年1月）

【片岡千恵蔵】

67. 「天下太平記」（千恵プロ、1928［昭3］年）ポスター
77.2×41.0

★68. 片岡千恵蔵プロマイド

69. 「萬花地獄」（マキノ、1927［昭2］年）チラシ
13.1×19.1

70. 「愛染地獄 第三篇」（千恵プロ、1930［昭5］年）チラシ
15.5×23.0

71. 「右門捕物帖　三番手柄」（千恵プロ、1930［昭5］年）チラシ
23.0×15.7

72. 雑誌「千恵藏映画」（千恵藏映画社）創刊号（1929［昭4］年10月）

【林長二郎】

73. 「乱軍」（松竹―衣笠映画聯盟、1927［昭2］年）ポスター
63.3×29.5

★74. 林長二郎プロマイド

★75. 林長二郎豆プロ

76. 「稚兒の劍法」（衣笠映画聯盟―松竹、1927［昭2］年）チラシ
46.0×31.3

77. 「篝火」（衣笠映画聯盟―松竹、1928［昭3］年）チラシ
15.5×22.8

78. 「吹雪峠」（松竹、1929［昭4］年）チラシ
15.0×22.2

79. 雑誌「長二郎映画グラヒック」（松葉屋出版社）第2巻第4号（1928［昭3］年10月）

48

60

68

54

64

74

尾上松之助の誕生日・命日を記念して9月頃に講演会など関連イベントの開催を予定しています。詳細はホームページなどで発表します。

東京国立近代美術館ホームページ
http://www.momat.go.jp/